

第2部

基 本 構 想

湖南省市民憲章から、まちづくりのための5つの理念を掲げます。

まちづくりの理念1

美しい水と緑を大切にし、自然と調和したまちをつくれます。

まちづくりの理念2

たがいの人権を認めあい、思いやりのあるまちをつくれます。

まちづくりの理念3

子どもが健やかに育ち、障がい者や老人をはじめ、だれもが安心して暮らせるまちをつくれます。

まちづくりの理念4

ゆたかな歴史を重んじ、香り高い文化のまちをつくれます。

まちづくりの理念5

社会の規律を守り、安全で住みよいまちをつくれます。

(1)まちの将来像

市民、地域、企業、行政の協働によって生涯住み続けたいとなるまちをめざし、本市の将来像を、「ずっとここに暮らしたい！ みんなで創ろう きらめき湖南」とします。

【 まちの将来像 】

ずっとここに暮らしたい！

みんなで創ろう きらめき湖南



(2)人口の見通し

【このままの動向では人口が急激に減少】

日本の将来人口の見通しは、令和42年（2060年）には、9,284万人まで減少すると試算されています。

国立社会保障・人口問題研究所*の推計に準拠する方式で実施した湖南省の将来人口推計（平成27年（2015年）の国勢調査人口から推計）によると、湖南省の人口は、令和42年（2060年）には平成27年（2015年）よりも約16,003人減少（-29%）する見通しです。

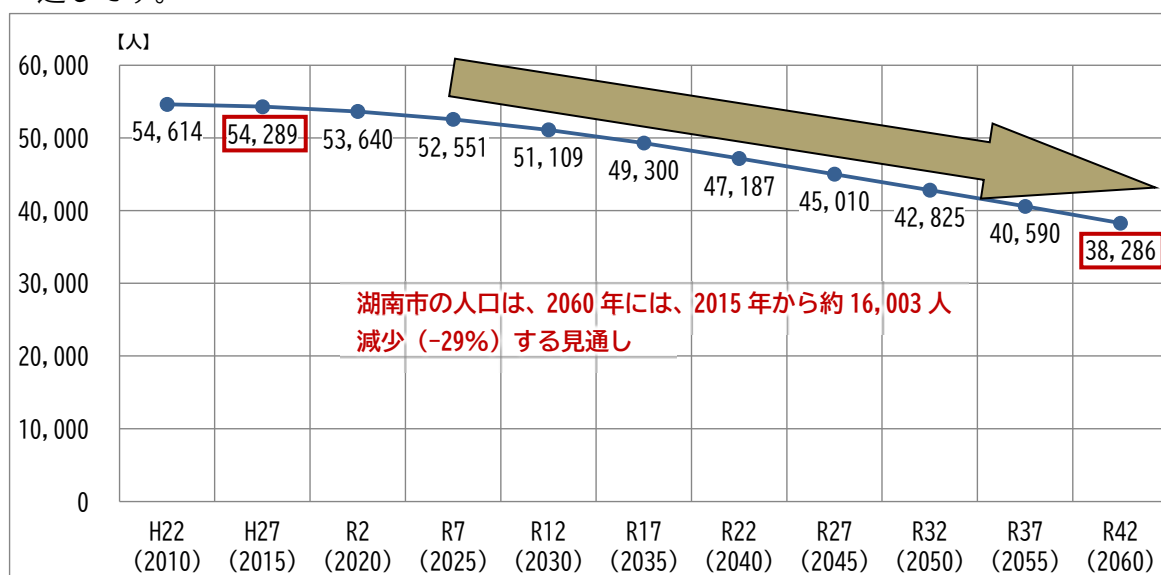


図 湖南省の将来人口の見通し 資料）内閣府（国立社会保障・人口問題研究所*準拠方式）

【人口減少が社会に及ぼす影響】

これまでのまちづくりや社会制度は、人口が増加する社会を前提に考えられており、急激な人口減少が起きれば、様々な面で対応することが困難となります。

～人口減少が湖南省に及ぼす影響の例～

- 市内の消費の縮小
- 学校の児童数の減少、空き教室の増加
- 空き家、空き地の増加
- 耕作放棄地や管理放棄山林の増加
- 地域コミュニティの弱体化
- 一人世帯の増加、無縁社会の深刻化
- 税収の減少、行政サービスの低下、公共施設の統廃合

これらの人口減少による影響は、市内で一様に発生するのではなく、条件が不利な地域や、一見、有利に見えても課題に無関心な地域等から、まだら模様が発生していき、湖南省全体の活力を削ぐ重大な課題となります。

【長期的目標と5年後の目標】

長期的将来である令和42年（2060年）には、46,840人まで人口を押し上げることをめざし、速やかに総合的な人口減少対策（第二期総合戦略）に取り組めます。

5年後の令和7年（2025年）には、現状の人口規模を維持することをめざします。

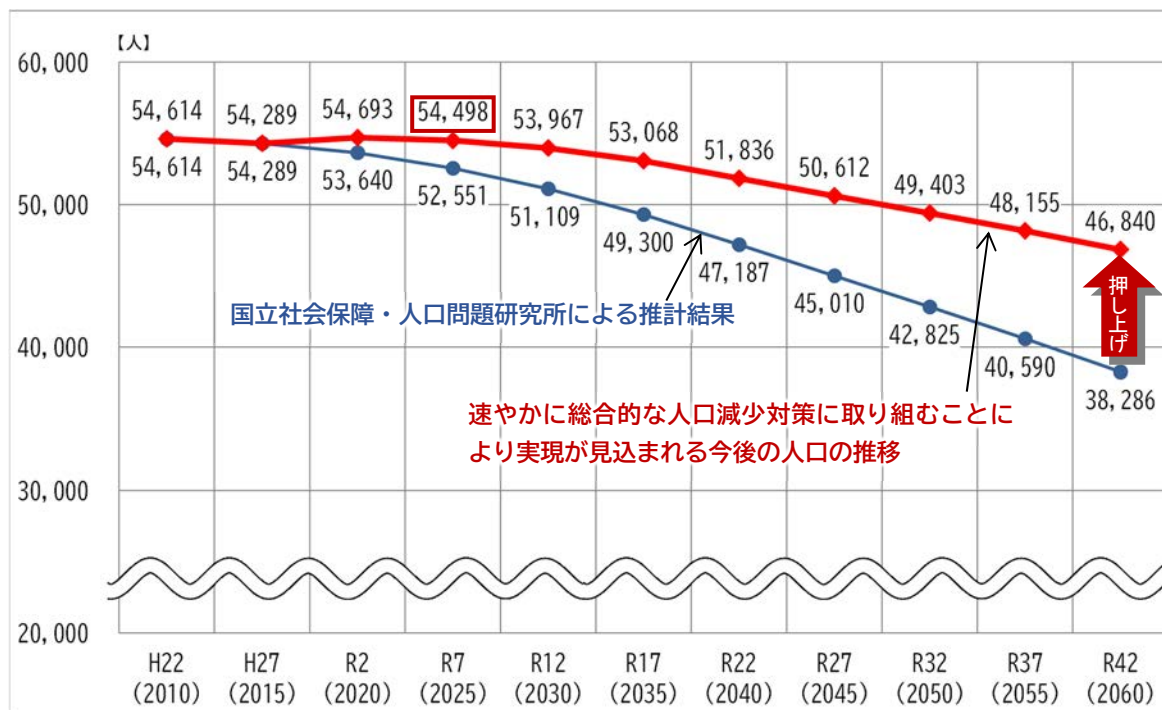


図 湖南省の将来人口の見通しと目標

【目標人口実現のために】

まちの将来像「ずっとここに暮らしたい！ みんなで創ろう きらめき湖南」の実現をめざすことは、湖南省への愛着と誇りを形成し、湖南省で暮らすことで味わえる豊かさや幸福感を実感できるまちづくりを進めることです。急激な人口減少、少子高齢化を防ぎ、現状の人口規模を維持するとともに、中長期的に若々しさを保つことにつながります。

～人口規模を維持するための総合戦略の目標～

- 合計特殊出生率*を高めること（次世代を担う子どもが増えること）
⇒出産・子育て支援
- 安定的な人口移動であること（転入・転出を均衡させること）
⇒観光交流活性化、ブランド向上等による地域内経済循環の活発化、企業誘致策の充実等雇用の増加の着実な持続

まちづくりの5つの理念を実現するために、「自立と協働のしくみ」「暮らしの創造」「まちの基盤」の3つの視点を定めます。

自立と協働のしくみ

自分たちでできること「自助」、地域における住民・地縁団体・NPO*・企業等の多様な担い手による「共助」とともに行政の支援「公助」の協働のしくみをつくります。

暮らしの創造

平和と環境と人権を守るまちを基本に、活気と希望にあふれ、子どもが健やかに成長できる、安心・安全な暮らしを創造します。

まちの基盤

まちはみんなが幸せな人生を過ごす大切なステージです。そのため、定住意向を高め、利便性の高い、快適な「都市」としての基盤を整えます。



将来像を実現するためのまちづくりの6つの目標を掲げます。

(1) みんなで共に進めるしくみをつくろう

～人権尊重と自立・自助、共助のまちづくり～

すべての市民がおたがいの人権を尊重し、様々な差別をなくしながら、性別や国籍等にかかわらず全員が社会参画するまちづくりを進めます。

また、自分たちの地域のことは自分たちが決定し、実施するという自立・自助意識を高め、市民が交流し、協働する活動を進めることにより、地域が主役のまちづくりを推進します。あわせてまちづくりのためのルールづくりや情報ネットワークの構築を進め、みんなで共にまちづくりを進めるしくみの確立をめざします。

(2) うるおいのあるまちをつくろう

～自然を生かし、自然と共生するまちづくり～

美しい湖南省の自然環境を守り、次代に継承するためには、市民一人ひとりが自然へ配慮しながら主体的に行動することが必要です。このため、市民と行政が一体となって、暮らしのなかで環境保全意識の底上げを図るとともに、森林や河川、町なかの自然と共生し、身近に公園や緑・レクリエーションの場があるまちづくりをめざします。

また、地域に存在する自然エネルギーや地域内循環に対する意識を高めながら、地域自然エネルギーを活用した持続可能なまちづくりを進めます。

(3) 活気あるまちをつくろう

～産業が集まり、人が集うまちづくり～

これまで湖南省は、基幹産業であった農業から高度経済成長を経て、産業立地を生かした工業地域として発展してきました。

交通ネットワークの整備により高まる立地条件・地域資源・地域性を最大限に生かしながら、企業誘致や新たな産業の育成を図ります。

また、自然や歴史的まちなみ、伝統工芸等の地域資源を活用した体験型観光等市内外から人々を引きつける本市の魅力の発掘・発信を進め、交流人口*を拡大します。

農・商・工・観の様々な連携によって多様な産業を発展させることで、幅広い世代に対応した新たな就労機会を創出し、活気あるまちづくりをめざします。

(4)ほっとする暮らしをつくろう

～生涯を通じた安心と健康のまちづくり～

いつまでも健康で輝き続けられる人生を送ることはすべての市民の願いです。そのために、市民相互の助け合いの心を醸成し、年齢や障がいの有無等にかかわらず安心して安全に暮らせるまちづくりを進めます。地域での暮らしを支える子育て支援サービス、高齢者や障がい者への生活支援サービス、介護予防や介護サービスの充実を図ります。

また、市民が支えあう地域福祉活動や防災・防犯活動を促すとともに、安心・安全なまちづくりのための体制や施設・設備を充実し、生きる喜びを共有しながら心地良さとほっとする暮らしのあるまちをめざします。

(5)いきいきとした暮らしをつくろう

～誇りとなる市民文化を創造するまちづくり～

子どもが豊かな人格形成や自己表現を果たせる教育内容の充実や環境整備とともに、市民が、いつでも、どこでも、生涯を通じて一人ひとりの潜在能力を伸ばし、その成果を適切に生かすことができるまちづくりを進めます。特に、多様な価値観・ライフスタイル等を受容するなかで、様々な個性を持つ人々が相互に支えあい、高め合い、新たなアイデアを生み出すことのできる環境の構築をめざします。

また、香り高い歴史文化を守るとともに、文化芸術等の面で新たな湖南市の特色ある市民文化を育て、これらによって、誰もがいきいきと暮らすまちをめざします。

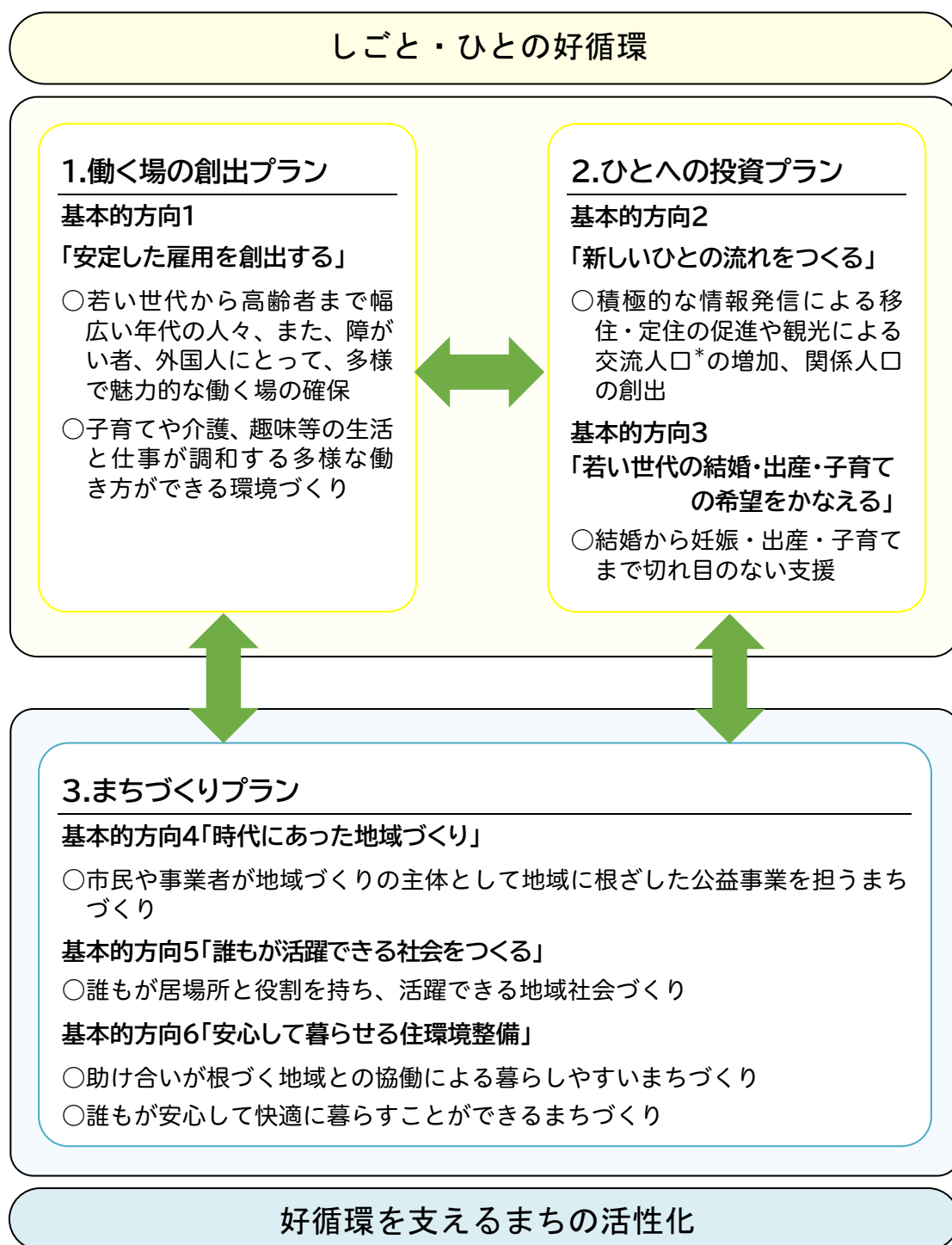
(6)明日を拓くしくみをつくろう

～効率的・効果的な行財政システムづくり～

基本構想を着実に実現するため、行財政改革の推進により、公共性や必要性のほか、有効性・効率性、ICT*の活用等の観点からも検討を加えながら行政サービスの向上を図るとともに、市有施設の計画的な維持管理や一層の有効活用等効率的な行財政の運営を行い、近隣市町とも連携した明日を拓くしくみのあるまちづくりをめざします。

～重点プロジェクト構想～

まちの課題や市民のニーズから、湖南省が重点的に推進するプロジェクトを湖南のプランとして掲げます。本構想においては、「働く場の創出」と「ひとへの投資」、「まちづくり」の3つのプランを実現することで、人と地域とまちが輝くことをめざします。

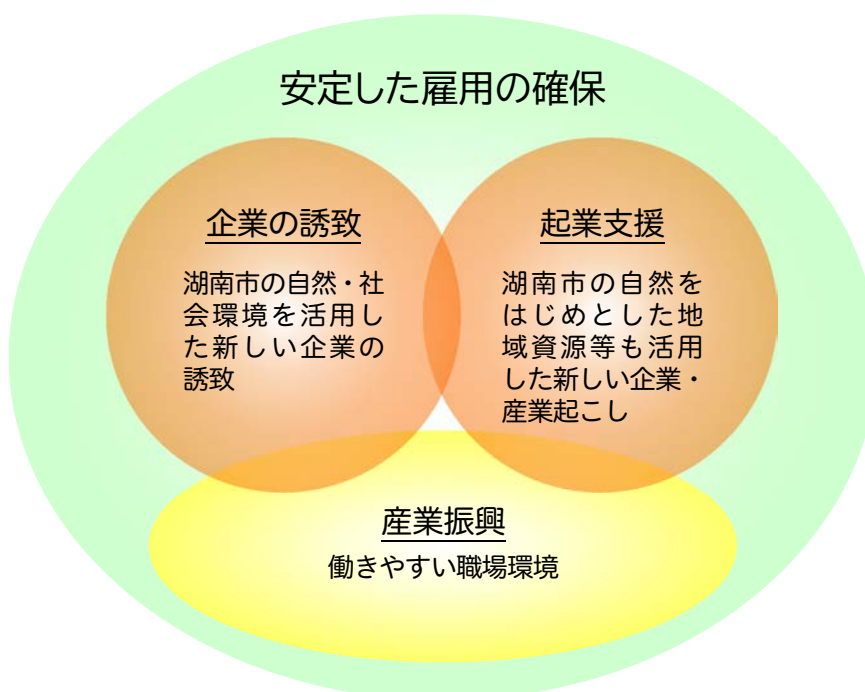


働く場の創出

湖南省から人口の流出を食い止め、人口の流入を加速させるためには、若い世代から高齢者まで幅広い年代の人々にとって多様で、魅力的な働く場が必要です。また、仕事の内容だけでなく、子育てや介護、趣味等の生活と仕事が調和（ワーク・ライフ・バランス）する多様な働き方を柔軟に選択できることが重要です。

湖南省には、農林業や工芸等の「伝統的産業」とともに、近代以降に発展し本市に多く立地する「工業」があることから、これらを活用した先進の技術やシステム、消費者の変化するニーズに対応したサービスを育む「新たな研究・小売サービス業」等の誘致に取り組めます。また、湖南省の環境に配慮し、市民の生活を豊かにするための産業の育成、起業支援により、本市にふさわしい地域産業の活性化に取り組み、働く場の創出を進めます。

働く場の創出



ひとへの投資

地方への新しい流れをつくるために、「働く場の創出」を図り、若い世代の湖南省での就労を促すと同時に、市外から湖南省に訪れる人々を増やし、湖南省の良さを知ってもらうことで、関係人口の増大や移住・定住を促進します。

特に、若い世代の移住・定住を進めるために、安心して子どもを産み育てることができるよう、結婚から妊娠・出産・子育てまで切れ目のない支援、子ども・若者が社会の一員としていきいきと活動でき、夢を実現できる地域づくりを、未来への投資として積極的に取り組みます。

ひとへの投資

新しい人の 流れをつくる

湖南省に訪れ、愛着を感じることが
できる環境づくり

若い世代の定住を支援する
しくみづくり

若い世代の希望を かなえる支援

子どもや若者が健やかに
成長できる環境づくり

安心して結婚・妊娠・出産・子育て
ができる環境づくり

まちづくり

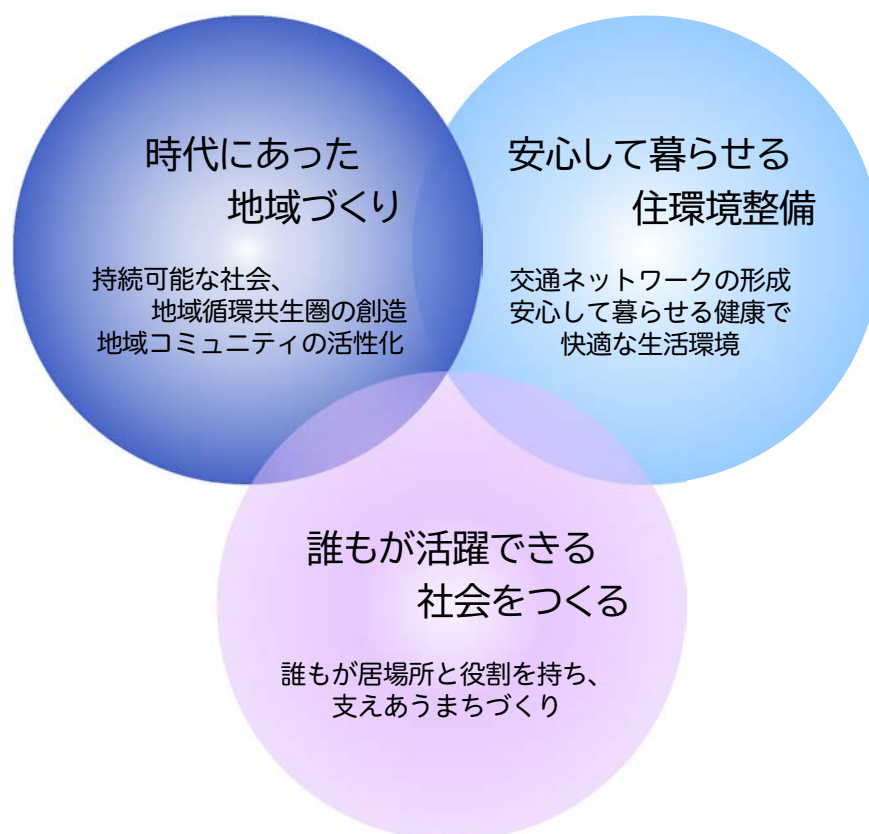
「働く場の創出」と「ひとへの投資」の好循環を支えるためには、人々が湖南省での生活やライフスタイルのすばらしさを実感し、安心して暮らせるような「まちづくり」が必要です。

持続可能なまちづくりや、Society5.0*やスーパーシティ*の実現に向けた技術の活用を推進し、時代にあった地域づくりを促進します。

公共交通網の再構築等により交通ネットワークを形成するとともに、医療・福祉・商業等の必要なサービス享受でき誰もが安心して快適に暮らすことのできる湖南省を実現します。

地域コミュニティの維持や魅力ある地域づくりのために、地域が多様な価値観を受け入れ、様々な技能や経験を持った人々が地域にかかわる担い手として自ら積極的に参画、活躍できる環境づくりを進めます。

まちづくり



本構想では、湖南省の都市機能の整備のために現在の土地利用の現状と自然環境等を勘案しながら、市域を6つのゾーンに分けてそれぞれの地域特性を明らかにします。

その上で、各ゾーンの都市機能および自然環境の保全と活用のための整備方針を示します。

また、あわせて交通基盤としての交流軸の整備方針を示します。

■ 地域構造

(1) 東部都市ゾーン ～東部・にぎわいの街～

ゾーンの最北部は新興住宅地および既存集落が形成され、中部は東側に工業地域があり、西側には新興住宅団地および既存集落・農地が形成されています。また、野洲川と県道4号、JR草津線を挟んで三雲駅周辺の既存集落および住宅（造成地）が形成された都市ゾーンです。

今後の整備方針としては、三雲駅周辺市街地整備、工業団地の環境整備、農地の保全、河川環境の保全等とともに、行政サービス施設の整備をはじめ、住宅地の生活環境の充実と新たな地域交流拠点（商業集積）との交通ネットワークの整備、地域交流拠点へのさらなる産業集積、商店街の活性化等、にぎわいの街づくりを推進します。

(2) 中部都市ゾーン ～中部・集いの街～

ゾーン中央は市庁舎・文化ホールのほか商工会や大型量販店等があり、湖南省の中心核的ゾーンです。また、野洲川と県道4号、旧東海道を挟んでJR甲西駅周辺に進出企業群と農地が形成され、南部に宅地造成地がある都市ゾーンです。

今後の整備方針としては、甲西駅周辺市街地整備・商業集積や行政サービス施設の整備とともに、河川環境の保全、道路ネットワークの整備、県道4号沿道への産業集積を進め、集いの街づくりを推進します。

(3)西部都市ゾーン ～西部・やすらぎの街～

ゾーン北部菩提寺には本市最大規模の新興住宅地があり、野洲川と県道4号、旧東海道を挟んでJR石部駅の東側に大型量販店等の商業施設が集積しており、南側の旧東海道筋に形成された既存集落があります。また、周辺の自然環境と調和した医療福祉施設、生涯学習施設が形成された都市ゾーンです。

今後の整備方針としては、行政サービス施設の整備をはじめ、石部駅周辺の機能充実や国道1号バイパス沿いの商業・企業集積、旧街道筋環境整備、農地・河川環境の保全とともに道路ネットワークの整備を進め、やすらぎの街づくりを推進します。

(4)農住共生ゾーン

農地と住宅地が混在するゾーンで、森林や野洲川の景観にも恵まれ、豊かな田園風景と良好な居住環境が共生しています。

今後の整備方針としては、現在のポテンシャルを生かしながら農地の保全に留意し、豊かな自然環境を身近に感じて暮らせる良好な住環境の維持を図ります。

(5)北部森林田園ゾーン ～自然あふれる 癒しの森～

ゾーン北西部は県立希望が丘文化公園の一部を占め、岩根山十二坊の景勝地です。中腹にはゾーンのシンボルとなる十二坊温泉ゆららがあり、自然保養レクリエーションの場として期待されるゾーンです。

今後の整備方針としては、森林の保全と活用、温泉施設や社寺等を結ぶ遊歩道等の整備を進め、自然あふれる癒しの森づくりを推進します。

(6)南部森林ゾーン ～生命輝く うるおいの森～

ゾーンのほとんどは森林地域となっていますが、西部から東部には史跡が点在します。このため、森林の保全・管理とともに豊かな森林レクリエーションの場としての活用が期待されるゾーンです。

今後の整備方針としては、森林の保全と活用や歴史遺産周辺整備とともに、各歴史遺産を結ぶ遊歩道等の整備や森林レクリエーション機能の充実を図り、生命輝くうるおいの森づくりを推進します。

■ 交流軸

(1) 広域交流軸

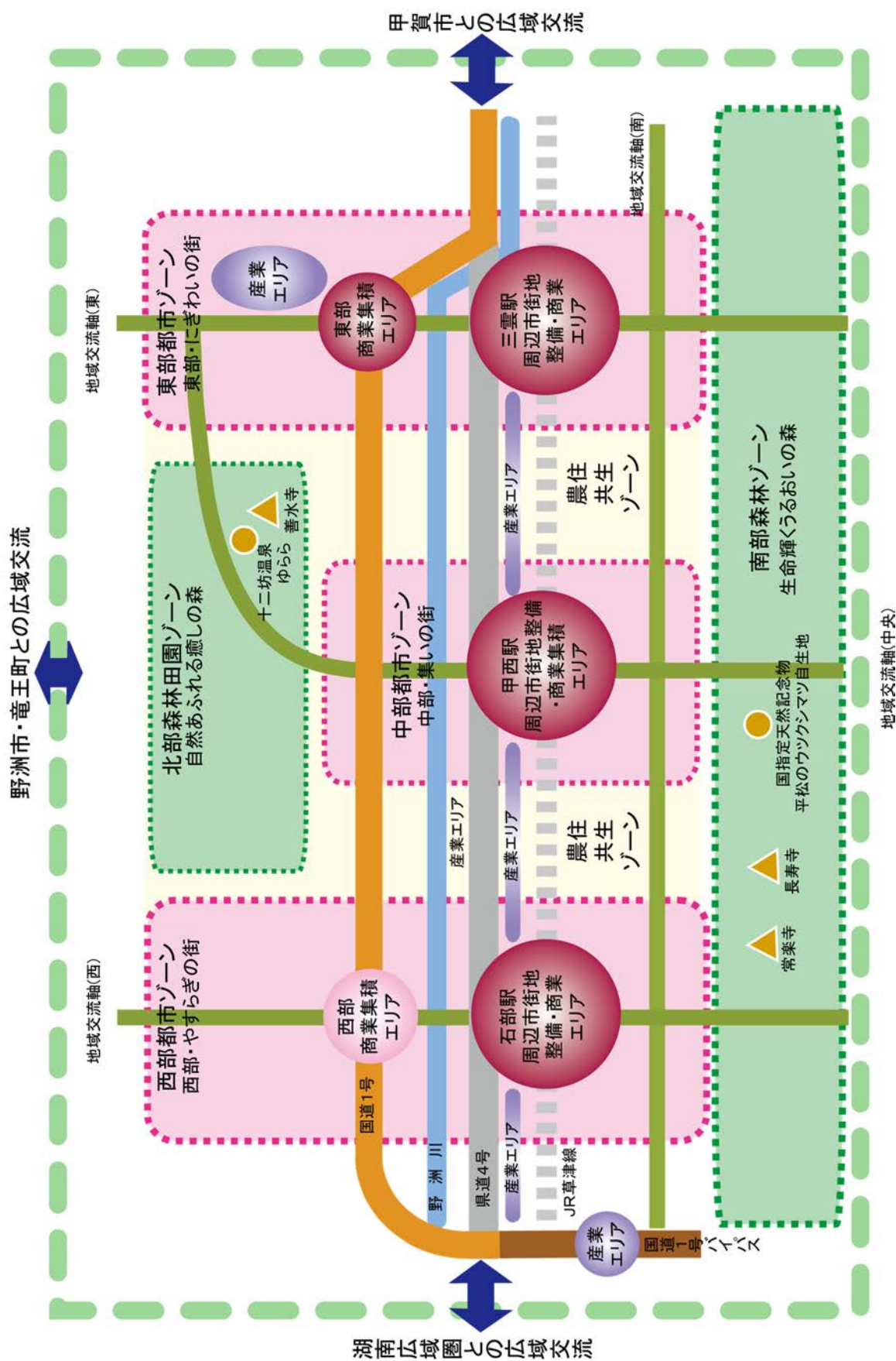
国道1号の4車線化促進やJR草津線の複線化を進めることによって、東西広域交流軸の強化を図ります。また、地域交流軸との結節点における拠点創出の実現を図り、熟度に応じて都市計画の適切な見直しを進めます。

(2) 地域交流軸

南北および東西地域交流軸の整備によって地区間の交流機能の強化、特に各市街地および住宅地と石部駅、甲西駅、三雲駅各駅間の交流軸の強化を図ります。

みんなでつくる将来のまちの姿

みんなですつくる将来のまちの姿



第1部 はじめに



第二次湖南省総合計画基本構想 体系

まちづくりの5つの理念

まちの将来像

まちづくりの
3つの視点

まちづくりの6つの目標

美しい水と緑を大切に
し、自然と調和し
たまちをつくりま
す。

たがいの人権を認め
あい、思いやりのあ
るまちをつくりま
す。

子どもが健やかに育
ち、障がい者や老人
をはじめ、誰もが安
心して暮らせるまち
をつくりまします。

ゆたかな歴史を
重んじ、香り高い
文化のまちをつ
くりまします。

社会の規律を守
り、安全で住みよ
いまちをつくり
まします。

ずっとここに暮らしたい！
みんなで創ろう
きらめき湖南

自立と協働のしくみ

暮らしの創造

まちの基盤

みんなで共に進めるしくみをつくろう
～人権尊重と自立・自助、共助のまちづくり～

うるおいのあるまちをつくろう
～自然を生かし、自然と共生するまちづくり～

活気あるまちをつくろう
～産業が集まり、人が集うまちづくり～

ほっとする暮らしをつくろう
～生涯を通じた安心と健康のまちづくり～

いきいきとした暮らしをつくろう
～誇りとなる市民文化を創造するまちづくり～

明日を拓く^{ひら}しくみをつくろう
～効率的・効果的な行政財政システムづくり～

人と地域とまちが輝く3つのプラン

働く場の創出
安定した雇用
の創出と、働き
やすい環境づ
くり

ひとへの投資
新しいひとの
流れをつくる、
若い世代の結
婚・出産・子育
ての希望をか
なえる

まちづくり
時代に合った地
域づくり、安心
して暮らせる住
環境整備、誰も
が活躍できる社
会をつくる

モータリゼーション*の発展に伴い、市民の活動範囲は格段に広がっています。それと歩調をあわせるように地方分権が進むなか、広域的な行政課題を効率的かつ効果的に解決する新しい手法が求められています。

本構想では、湖南省内の将来構想にとどまらず、周辺地域との連携交流の将来像を示すこととします。

■ 広域連携の姿

我が国の地方自治制度は、都道府県と市区町村の2層制を採用しています。基礎的自治体である市町村は、住民に最も身近な総合行政を担う自治体として存在し、湖南省もその一つです。湖南省は、約70km²の広さに約54,000人が居住していますが、その周囲にも同様に基礎的自治体が存在しています。

これからの時代には、湖南省単独ですべての行政サービスを担うことがより難しくなると予想され、市民の活動範囲の広域化と相まって、広域的な連携を進めていく必要があります。

ここでは、将来に向けて湖南省が考えるべき3つの広域連携像を提示します。

(1) 甲賀市との連携

甲賀市は、湖南省の東から南に隣接する基礎的自治体で、人口が約91,000人、面積は約482km²です。甲賀市との間には、旧甲賀郡時代から広域行政が行われており、消防、清掃（し尿・ごみ）、徴税等の事務を担う「甲賀広域行政組合」と、地域の中核病院*である甲賀病院を共同運営する「地方独立行政法人公立甲賀病院」を設置しています。また、甲賀・湖南広域行政協議会では、両市の関係する広域的な行政課題について、両市の自治の枠組みを維持しつつ相互に連携することにより、市民サービスの向上や行政事務の効率化を図るなど、様々な広域連携の実現に取り組んでいます。

旧甲賀郡域の行政官庁は甲賀市水口町に集中（裁判所、税務署、警察署、県事務所等）する一方、経済的なつながりもあります（甲賀農業協同組合、滋賀中央森林組合、水口ライオンズクラブ、湖南ロータリークラブ、水口青年会議所、甲賀広域勤労者互助会等）。甲賀市と湖南省は野洲川の上下流の関係となり、JR草津線の複線化という共通目標を持っているため、今後も緊密に連携して取り組むことが考えられます。

「基本構想」を進めるにあたって 広域連携の将来像の考え方

(2) 竜王町との連携、野洲市との連携

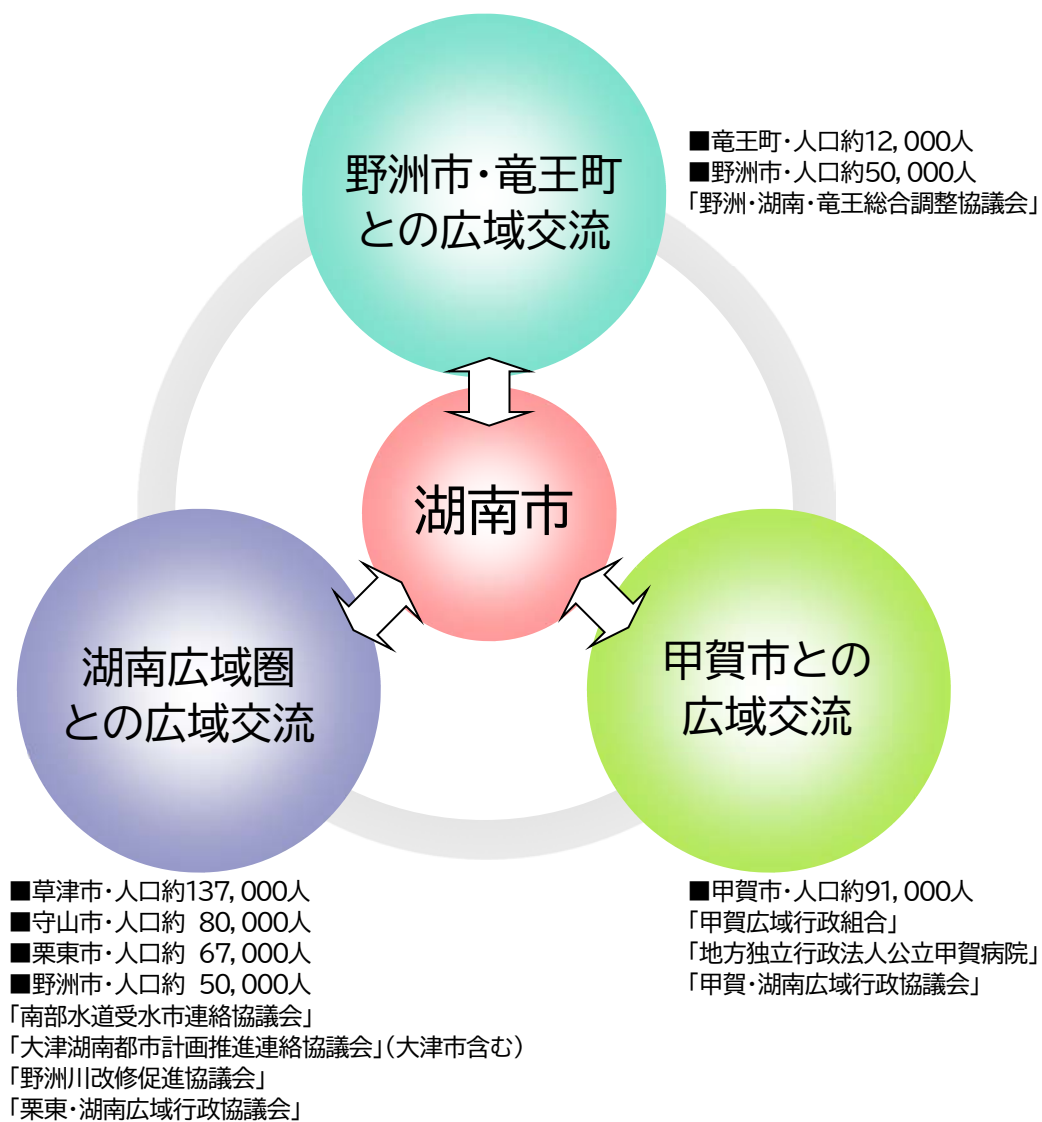
蒲生郡竜王町は、湖南市の北に隣接する基礎的自治体で、人口が約 12,000 人、面積は約 45km²です。湖南市下田地区と竜王町山之上地区は古くから深い交流があり、自動車工場が竜王町に建設され、従業員の多くが湖南市に居住するという関係もあります。また、竜王町のアグリパーク竜王をはじめ観光果樹園、三井アウトレットパーク等に湖南市民が、湖南市の下田商店街をはじめ市内商業施設に竜王町民が相互に交流しています。湖南市と竜王町は祖父川の上下流関係にあるとともに、湖南市三雲から湖南工業団地を抜けて竜王町へ至る県道 13 号の交通量も多く、両市町は良好な関係を保ってきました。湖南市と竜王町で約 7 万人の勢力圏となり、新たな自治体のかたちと考えられます。

野洲市は、湖南市の北西に隣接する基礎的自治体で、人口が約 50,000 人、面積は約 80km²です。湖南市菩提寺地区をはじめ J R 琵琶湖線野洲駅を通勤通学に利用する湖南市民が多く、湖南市と野洲市は、野洲川や大山川において上下流関係にあります。野洲市、竜王町とは「野洲・湖南・竜王総合調整協議会」を設置しており、滋賀県立希望が丘文化公園を中心とした自然都市の建設を構想することが可能です。名神高速道路竜王インターや J R 琵琶湖線、国道 1 号、国道 8 号バイパス等を利用したこの地域の潜在力は高く、回復傾向にある製造業に支えられ、将来の少子高齢社会における福祉サービスの財源確保に有利に働きます。今後は、十二坊トンネル（仮称）や J R 琵琶湖線野洲－篠原間新駅等による交通アクセスの向上が課題となります。2 市 1 町では約 12 万人の勢力圏となり、広域連合に発展させることが考えられます。

(3) 湖南広域との連携

湖南広域とは、草津市、守山市、栗東市および野洲市を指します。これらは、湖南市の北西から西に隣接またはその西に位置し、湖南市とは野洲川の上下流関係にあります。4 市は「湖南広域行政組合」を組織していますが、湖南市との間では、「南部水道受水市連絡協議会」を設けており、さらに大津市を加えて「大津湖南都市計画推進連絡協議会」を設置しています。また、守山市、栗東市、野洲市と湖南市の 4 市で「野洲川改修促進協議会」を組むとともに、栗東市と湖南市は「栗東・湖南広域行政協議会」を構成する関係にあり、旧東海道や国道 1 号、J R 草津線を介して密接な関係にあります。5 市の総人口は約 388,000 人となり、国道 1 号バイパスや国道 8 号バイパス、J R 草津線複線化や琵琶湖線複々線化等の大きなプロジェクトが実際に動いている地域であり、広域的に連携するメリットが大きな地域でもあります。地方分権の進展に伴い、中核市に準ずる地域として、介護保険や障がい者自立支援等の福祉分野の強化、南部水道受水広域企業体の組織等、広域連合として取り組む課題は山積していると考えられます。この場合は、広域連合長を選挙で選ぶ*など、個別自治体のしがらみにとらわれない制度的担保が必要となることが考えられます。

広域連携の概念図



※合併等による固有名詞は現時点での表記にしています。

※人口は平成 27 年(2015 年)国勢調査結果、面積は平成 30 年度(2018 年度)統計書によります。